

支 援 事 業
報 告 集



愛芸アシスト基金

2018
年度

ご挨拶

日頃は愛芸アシスト基金にご支援を賜り、まことにありがとうございます。また本学の
展覧会や演奏会にも足をお運びいただき、心より御礼申し上げます。

本学は、半世紀にわたりこの中部、東海地域の芸術文化の発展に寄与すべく尽力して
まいりました。これまで美術・音楽の両分野より、芸術家・研究者・教育者等、日本のみならず
世界で活躍する卒業生を輩出しております。これも県民の皆様や地域の皆様、なによりこの
愛芸アシスト基金にご賛同をいただきました皆様のご理解があったることと考えます。

本学はこれからも、将来の芸術文化を担う人材を育成すると同時に、大学自らも芸術
活動を通して地域に貢献していく所存です。

今後とも皆様に愛される大学となるよう、一層の努力をしております。変わらぬご支
援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

愛知県立芸術大学学長職務代理者
副学長 戸山 俊樹

令和元年6月22日(土)

愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURAを開廊いたします

名古屋栄のサテライトギャラリー閉廊から1年9ヶ月を経て、新たに栄北(オアシス21
至近)に生まれ変わったサテライトギャラリーSA・KURAを開廊いたします。

愛芸大の今、を広く公開し、地域と共に、名古屋、そして愛知の芸術・文化の発展を
目指し、本学の教員や学生を主体とした展覧会や講演会、ワークショップ等を開催して
参ります。

皆さまからの温かいご支援を、どうかよろしくお願い申し上げます。



ギャラリー名SA・KURAには このような思いが込められています

- S = Satellite サテライト
- A = Aichi Art 愛知 アート AUA
- KURA = 蔵 (研究や資料などの宝物を、
ここから発信する拠点としての蔵)
- SA・KURA = 東桜という地名の一部

2018年度 愛芸アシスト基金 支援事業日程表

01 オペラ公演 歌劇《シンデレラ》(サンドリヨン)

2018年12月8日(土)、9日(日)

長久手市文化の家

2018年12月15日(土)

パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)

02 愛・知・芸術のもりから

2018年7月～2019年3月 計6回

SMBCパーク栄

03 収藏品展

2018年5月15日(火)～6月6日(水)

愛知県立芸術大学 芸術資料館

04 学生企画の支援

2018年4月～2019年3月

5件(美術学部・美術研究科2件、音楽学部・音楽研究科3件)

05 あいち・アールブリュット障害者アーツ展でのコンサート

2018年9月21日(金)

名古屋市東文化小劇場

06 障害者福祉支援事業としての陶芸アート

出前講座:2018年11月27日(火)、12月1日(土)、2019年1月12日(土)

社会福祉法人ぶなの木福祉会 地域活動支援センター陽なた

展覧会:2019年3月12日(火)～3月17日(日)

名古屋市民ギャラリー矢田

01 オペラ公演 歌劇《シンデレラ》(サンドリヨン)



2018年度の大学オペラ公演は、長久手市文化の家とパティオ池鯉鮒(知立市文化会館)において4年ぶりとなるマスネ《シンデレラ》(サンドリヨン)を皆様にご覧頂きました。

一部公演では完売となるなど、多くの皆様にご来場頂き、大変盛会となりました。

今回の舞台美術は具体性を抑えたシンプルな要素で構成、さらに照明(古川靖)や衣裳(下斗米大輔)が加わり、幻想的な雰囲気を出し、ご来場の皆様それぞれが持つ『シンデレラ』の世界観がさらに広がったことと思います。

キャストたちの懸命な演唱、舞台袖に戻るたびに僅かな

時間で衣裳を着替え、舞台転換まで担ってくれた合唱、雄弁なメロディと多彩な和声を奏でるオーケストラ、いずれも音楽と美術の二つの学部を擁する本学ならではの大学オペラ公演となりました。

2019年度の大学オペラは、本学では初めて取り上げるモーツァルトの《偽の女庭師》を上演します。今後とも大学オペラの応援、変わらぬご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

初鹿野 剛(大学オペラ制作責任者)



02 愛・知・芸術のもりから



「愛・知・芸術のもりから」は、愛芸アシスト基金のご支援のもと、平成30年度で9年目を迎えることができました。名古屋の中心に位置するSMBCパーク栄でのこのレクチャーコンサートは、各専攻コースから選ばれた優秀な本学卒業生・修了生たちが音楽を発信する舞台となっています。若い彼らは、すでに各地で活躍している魅力ある演奏家たちばかりですが、このコンサートは、彼らのさらなる飛躍のきっかけとなるとともに愛知芸大の素晴らしさを広く知っていただける絶好の機会となっております。

平成30年度は、ピアノ、声楽、弦楽器、管打楽器の卒業生・修了生から計6グループが出演しましたが、毎回満席に近いお客様にお楽しみいただきました。今後とも皆様の温かいご支援をいただきますよう、よろしくごお願い申し上げます。

福本 泰之(音楽学部長兼研究科長)

03 収藏品展



芸術資料館収藏品展

「感じるデザイン・あじわう紙」
「現代版画の軌跡—新収藏品を中心に」

私たちの生活に欠かすことのできない「デザイン」。戦後復興の中で、日本のデザインはグラフィックデザインを中心に、めまぐるしい発展を遂げていきます。その一つの要因となったものが、デザインの素材となる「紙」の存在です。「感じるデザイン・あじわう紙」では、戦後のポスターを中心にデザインの変遷や多様さを感じていただくと共に、現在、使用・販売されているファインペーパーを実際に見たり触ったりすることで、新たなデザインの側面をあじわっていただける展示となりました。会期中は、多くの来観の方にお越しいただくと共に、新聞やラジオなど多くのメディアにも取り上げていただきました。

また、同時開催といたしまして、昨年度新たに収蔵した版画作品を紹介する「現代版画の軌跡—新収藏品を中心に」を開催しました。本学は開学以来、「教育に資すること」を目的とし、数多くの優れた作品を収集してきました。その中でも版画のコレクションは、総数で200点を超えています。特に、現代版画のコレクションとして、日本を代表する版画家駒井哲郎や長谷川潔、浜口陽三、そしてフランク・ステラなど国内外問わず、多様な作品を収蔵しています。本展覧会では、昨年度収蔵した木村秀樹、荒川修作、ジャン・アルブ、中西夏之の作品と、本学の収蔵品を合わせて展示し、現代版画の軌跡を紐解いていきました。



関連芸術講座として「版画から見た現代美術—木村秀樹氏を招いて—」を開催し、本展覧会の出品作家である京都市立芸術大学名誉教授の木村秀樹氏と元名古屋ボストン美術館館長の馬場駿吉氏をお招きし、版画という視点で現代美術の潮流について伺いました。普段聞くことのできない大変貴重なお話で、大変盛況な講座となりました。

愛芸アシスト基金会員の皆様には、芸術資料館収藏品展にご支援いただき、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

今後も、本学のコレクションを中心として、魅力ある展覧会を開催しますので、変わらぬご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

倉地 久(芸術資料館長)



04 学生企画の支援



発信する森

事業名:「発信する森」2018年度愛知県立芸術大学学生作品展
報告者:小西 祐矢(美術学部 デザイン専攻)

LIBERALは昨年度、愛知県立芸術大学の有志の学生により結成されました。私たちは本学の学生の芸術活動をより活発にし、学外に広くアピールして行きたいという思いから展覧会の企画等を行っています。今回の展覧会は、昨年度の「愛知県立芸術大学夏季作品展2017—発信する—」をブラッシュアップしたものです。構内の自然豊かで広大な土地や個性的な建築を生かすという精神はそのままに、学生主体であることや、学外へ作家の魅力を発信することにより重点を置いて企画しました。

今回の展覧会は、愛知県立芸術大学の学生であれば学部問わず誰でも応募でき、募集テーマや審査もありませんでした。展示場所の施設使用の条件さえ満たしていれば、どのような作品でも展示できるアンデパンダン展のような展覧会であったと言えます。学生が作品を沢山の方に見てもらうのは簡単なことではありません。多くの場合は、コンペティションや優秀作品展のように、他人の評価を得る必要があります。しかしより自由に作品を公開できる個展やグループ展といったものは多忙で金銭的余裕がない学生にとって負担が大きいものです。人に評価されることを意識せず、自分がしたい表現や展示に気軽に挑戦できる機会がもっとあっても良いのではないかとこの考えから、今回の展覧会のような形を選びました。

展覧会には、様々な学部・学年から42名もの学生に参加していただくことができました。作品形態は絵画からインスタレーションまで多岐にわたり、音楽科と美術科の合作や、屋外での平面作品の展示など、個性豊かな作品が集まりました。また新たな試みとして、出展作家の過去作品集の制作と販売も行いました。出展者の個性や考えに触れられるよう、作家のプロフィールや「発信する森2018」に出展した作品のコンセプトも掲載しました。

展覧会は台風による開催期間の短縮を余儀なくされ、不完全燃焼に終わりました。また、運営の至らぬ点を出展者の方に指摘されるなど、企画者側の未熟さも痛感しました。しかしこの展覧会を通して、出展者と来場者の両者にとって価値のある展示にするには何が必要か、学生はどのような展示の場を求めているのかについて深く考えることができました。

この展覧会は愛芸アシストのご支援により実現いたしました。丁寧に親切な対応をして下さった学務課や施設整備課をはじめ、開催にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。また経験の浅い私たちの企画に参加し、素晴らしい作品を出展して下さいました出展者の皆様に心より感謝いたします。



Flute Potpourri-フルート・ポプリvol.5

事業名:愛知県立芸術大学フルート専攻生によるFlute Potpourri-フルート・ポプリvol.5
報告者:満吉 香苗(音楽学部 器楽専攻 管打楽器コース)

私たちフルート専攻生が毎年開催している「フルート・ポプリ」は、2018年12月18日に5回目となる公演を迎えました。

今回は5周年ということもあり、今まで取り組んだことのない難曲や編成に挑戦し、フルートの魅力をお客様にお届けできるよう取組んで参りました。

メインの曲目『M.ラヴェル作曲「ダフニスとクロエ」第2組曲』では、初の試みとして本学打楽器専攻生にご協力いただき、本演奏会でしか聴くことのできないオーケストラのようなサウンドのフルートアンサンブル曲となりました。

他にも、本年度購入していただいたコントラバスフルートや珍しいBe-modeフルートなどを使用し、フルートの新た

な可能性をお客様にお届けすることができました。これは楽器が豊富に揃った本学だからこそできた取り組みです。

愛芸アシスト基金によるご支援や、准教授である橋本岳人先生のご指導など多くの方々のご尽力により、演奏会を盛況のうち終えることができました。このように運営から演奏まで、演奏会の全てを学生が主体となり作り上げる機会をいただけたことに感謝しています。

今後もより多くの方にフルートの魅力を知っていただけるよう、専攻生一同精進して参ります。





風景をみる／風景にみる

事業名: ファン・デ・ナゴヤ美術展2019
 「風景をみる／風景にみる」
 報告者: 小田川 祐希(美術学部 芸術学専攻)

公益財団法人名古屋市文化振興事業団が主催するアートの企画コンペティション「ファン・デ・ナゴヤ美術展」に応募し、2019年度開催企画として採択していただきました。

私は入学時から、作品をみる／作品がみられる／作品をみせるということに関心を持ち、展覧会づくりの現場や自主企画の展示活動を通して、作品のみえ方についての検討を重ねてきました。学生のうちに公の場で自分が企画した展示を実現することを目標としていたため、作家に声をかけて応募した次第です。

今回の展示では、本校大学院彫刻領域修士の丸山のどかさんと組み、「風景をみること」、そして「風景をみることでみえてくるもの」について考えるという、鑑賞者に問いかけるかたちの企画をしました。普段何気なく視界に入っ

るけれど意識的に目を向けてはいない、「見流している」という感覚に近いのかもしれない「風景」というものに目を向けてみるという提案に始まり、「風景をみる」という行為を通して、鑑賞者各々がみえてきたものについて考えを展開していくという趣旨です。

大きなホワイト・キューブでインスタレーション型の展示を企画することは、私にとっても作家にとっても初の試みでした。連日、学芸員や作家をはじめとする多くの方に足を運んでいただき、企画内容や作品の見せどころについての貴重な意見を賜りました。企画者、作家どちらにとっても実りある、次に繋げられる機会となったので、今後の活動にもこの経験を活かしていきたいです。



第1回 コントラBASSランド

事業名: 愛知県立芸術大学コントラバス専攻による
 第1回コントラBASSランド
 報告者: 大西 千夏(音楽学部 器楽専攻 弦楽器コース)



この度、第1回目となるコントラバスのためのコンサート「コントラBASSランド」は2019年2月16日たくさんのお客様にお越しいただき無事終演いたしました。この企画は普段聞くことの出来ないコントラバスの新たな一面を知っていただきたいという思いから始まりました。そのためプログラムにはコントラバスの珍しいソロ作品から誰もが知る名曲をコントラバス8本で演奏するまで、すべてコントラバスでお届けしました。終演後お客様からはたくさんの楽しかったというお言葉をいただき、私達も充実した時間を過ごすことが出来たこと大変嬉しく思っております。またこのような演奏会を開けたのは愛芸アシスト基金によるお力添えのおかげです。心より感謝申し上げますとともに第2回、3回と新たな伝統を築きあげられるよう精進してまいります。





第18回 打のとき

事業名: 第18回愛知県立芸術大学打楽器専攻生コンサート
「打のとき」
報告者: 木村 宇大(音楽学部 器楽専攻 管打楽器コース)



今年で18回を迎えた本学打楽器専攻生コンサート「打のとき」では、1年間室内楽の授業で学んできた成果を存分に発揮するべく、打楽器の古典とも言える楽曲から、現代を生きる作曲家に至るまで幅広く取り組み、とても充実した演奏会となりました。

作曲家の一ノ瀬トニカさんには、本番当日のリハーサルから指導をして頂きました。曲の解釈やイメージなど、細部にまでアドバイスを頂き、「作曲家とともに音楽を創る」という貴重な体験をしました。

また、シアターピースというジャンルの曲にも挑戦しました。演劇的な要素を多く持つこの曲を通して、舞台上に立つことや、エンターテインメントとはいかなるものか、私自身改めて考えさせられました。

そして、打楽器専攻生は、この公演を通して、演奏会を運営することの大変さや演奏を仕上げていくことの難しさなど、演奏家として必要不可欠なことを学べる大切な機会となっております。

さらに、こうして、演奏会を盛大に開催できたのは、愛芸アシスト基金からのご支援や、本学の先生方の熱意あるご指導など、多くの方々からの支えあってのことです。本当にありがとうございました。

今後も打楽器の持つ可能性を追求しつつ、お客様に楽しんでいただける演奏会を目指し、学びを深めていきたいと考えております。



あいちアール・ブリュット2018

「愛知県立芸術大学フレッシュアーティストによる木管五重奏とピアノの夕べ」

2018年9月21日に「愛知県立芸術大学フレッシュアーティストによる木管五重奏とピアノの夕べ」を名古屋市東文化小劇場で開きました。これは「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」の企画として、愛知県と愛知県立芸術大学の共催でおこなわれたもので、コンサートを実施するにあたって愛芸アシスト基金を活用させていただきました。

今回は「障害のある方、そして日ごろ支援や介助をがんばっている支援者の方に、芸術の夕べをお届けする」というコンセプトで、親しみやすく良質なクラシック音楽のコンサートを企画しました。演奏は、愛知県立芸術大学の在學生と卒業生で構成される木管五重奏団「アンサンブルヴィオレ」にピアノを加えた編成です。このアンサンブルは一般のコンサートだけでなく、学校アウトリーチ活動なども積極的



に取り組んでいる木管五重奏団で、前半は楽器紹介や日本の歌なども入れた親しみやすいプログラム、後半は本格的なクラシック音楽を解説付きで聴いていただくという、充実した内容でした。

会場での反応も上々で、今年度もさらに規模を大きくして実施することが決まっています。一方、演奏者からも「みなさん自由に音楽を感じてくださって、演奏している自分たちも本当に楽しい会となりました」という感想が出るなど、有意義な取り組みだったと思います。今後とも、愛芸アシスト基金からご援助いただければ幸いです。

井上 さつき(音楽学部 作曲専攻 音楽学コース 教授)





平成26年度より、愛知県芸術活動支援事業の一環で“あいちアール・ブリュット出前講座”を実施しています。本事業は、障害者の陶芸創作活動を指導・支援するもので、平成30年度は、11月27日、12月1日、1月12日の計3回開催しました。

本研究助成での活動内容をまとめた「陶芸作品制作ノート」と題する冊子を作成しました。この報告書は、陶芸を用いたアート活動が持つ効果と素材の特性を考慮した道具の使用や陶芸制作におけるプロセスに注目し、障害者が直接的に手や腕を用い、創造的な思考にもとづいた作品制作活動の取り組みについて解説したものです。さらに、平成30年度実施した出前講座で制作した作品を“あいちアール・ブリュット優秀作品特別展”（主催/愛知県：運営/愛知県障害者芸術活動参加促進事業実行委員会 あいちアール・ブリュット

出前講座：会場/名古屋市民ギャラリー矢田/2019年3月12日(火)～3月17日(日))にて成果展示を行いました。会場では、完成した作品とともに実施施設での制作風景や制作工程の解説パネルを掲示しました。

今後、この冊子を活用することで、愛知県健康福祉部障害者福祉課の担当者や実施施設での指導員やスタッフの方々とともに陶芸制作の理解を深めるための一助として新たな陶芸教育の可能性と指導方法を勘考する機会としていきたいと考えています。

佐藤 文子(美術学部 陶磁専攻 准教授)

01 オペラ公演 支援額:150万円

2019年12月7日(土)、8日(日)に長久手市文化の家、12月14日(土)にパティオ池鯉鮒(知立市文化会館)にて、歌劇《偽の女庭師》を公演します。

今年も、美術・音楽学部を兼ね備えた総合芸術大学の魅力をお楽しみください。

02 愛・知・芸術のもりから 支援額:30万円

SMBCパーク栄にて、本学OB、OGの演奏をお楽しみいただきます。

名古屋市の中心で、若い熱気と活気に満ちた演奏をご期待ください。

03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会支援 支援額:215万円

2019年6月22日に開廊する愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURAで行う展覧会運営支援です。

04 学生企画の支援 支援額:60万円

今年度も、学生が企画した優れた展覧会・演奏会に支援をします。

05 芸術資料館収蔵品展 支援額:10万円

本学陶磁専攻開設30周年を記念し、収蔵作品と共に陶磁専攻の軌跡を振り返る展示をします。

06 障害者向けアウトリーチ事業の推進 支援額:10万円

愛知県と連携した、障害を持った方達と一緒に楽しむ芸術体験を行う事業に支援をします。